

東電パートナーズは、社員の技術向上を目指して「ヘルパースター制度」を導入した。自社で抱える登録ヘルパー1100人を対象に、検定試験の実施によりヘルパーとしての技能を3段階で評価して、社員に上位資格取得を目指させることで資質の向上とサービスの充実を図るもの。検定のレベルは「星」で表わし、星1つⅡ接客マナーや介護技術の基本習得、星2つⅡ介護福祉士資格の取得、星3つⅡ介護技術の基礎を指導できるレベルで分類する。星1つにつき時給が上乘せされる仕組みで、これにより社員の努力が見える形(賃金)で還元されるのも特長だ。